

はじめに

高等教育の質保証が教育界で大きな話題になっている。

少子高齢化が進む中、18歳人口が減少の一途をたどり、大学入学への競争率が低下している。さらに就職難もあり、大学在籍中の学習意欲が低下し、海外に積極的に留学して向上を図ろうとする若者が減少している。医学部もご多分にもれず、入学定員増などの影響を受けて、医学生の学力低下が深刻な問題になっている¹⁾。

こうした中で、大学教育、とりわけ医師としてプロフェッショナルを育成する医学部における教育の質を保証することの重要性が改めて強調される。実際、アメリカ、イギリス、オーストラリアなどの欧米先進諸国では、医学部の分野別認証が10年以上も前から実施され、卒業生のコンピテンシーが保証されている。台湾、韓国、マレーシア、タイなど近隣アジア諸国においても、各国で医学部の認証評価制度が確立し、医学教育の質保証がなされている。

翻ってわが国の現状をみると、2004年に学校教育法の改正によって、大学評価学位授与機構、大学基準協会、高等教育評価機構による大学機関別認証が実施されるようになった²⁾ものの、医学部の分野別認証はまったく行われてこなかった。折しも、アメリカのEducational Commission for Foreign Medical Graduates (ECFMG)が、申請条件として、「2023年以降は国際的な認証評価を受けている医学部出身者に限る」との通告³⁾を2010年9月に発したのを契機に、わが国でも医学部の分野別認証評価を行うことの必要性が指摘

された。

本稿では、医学部の分野別認証評価制度の確立に向けた動向と展望を紹介したい。

1. 海外諸国における医学部分野別認証評価制度

ECFMGの通告には、「アメリカ国民の健康を守るには、質の保証された医学教育を受け、コンピテンシーが担保された医師にしか医業を任せられない」との大義名分がある。グローバル化が進み、医師や患者が国際間を自由に往来できる現状を憂慮したわけである。一方では、質が担保された有能な海外からの医師にアメリカ国内で活躍してもらい、医療の質を向上させたいとの思惑もあろう。

アメリカでは、全米医学校協会 (Association of American Medical Colleges: AAMC) の下にある医学教育連絡委員会 (Liaison Committee on Medical Education: LCME) が医学部の認証評価を行って医学教育の質を保証している⁴⁾。認証評価を行うためにLCMEは医学教育の基準を規定しており、各医学部はそれに則って学生を教育し、卒業させている。

イギリスでは総合医学協議会 (General Medical Council: GMC) が、概ね5年に一度、医学部の認証評価を行っている⁵⁾。GMCは医学部卒業時点で学生が修得しておくべきコンピテンシーを“Tomorrow's Doctors”に明記し、それに沿った医学教育が実施されているかどうかを認証評価の基準になっている。すなわち、各医学部は自学部の教育が“Tomorrow's Doctors”に則っているかどうかをまず自己点検する。自己点検報告書は評価委員に送られて査読され、その後8名の評価委員が現地を調査し、確認する仕組みになっている。評価委員には医学教育関係者のほかに、学生や一般人が含まれ、入学時のオリエン

^{*1} Faculty-specific Accreditation

^{*2} Nobuo Nara 東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター長

ーションなど、医学校の行事に合わせて年に8回程度視察が行われている。

2. わが国における医学部分野別認証評価制度

2010年のECFMG通告を受け、全国医学部長病院長会議では2011年に「医学教育の質保証検討委員会」を発足させ、認証評価制度の確立を目指した検討を開始することとした。また、平成24年度文部科学省大学改革推進委託事業：GPによる「国際基準に対応した医学教育認証制度の確立」が採択され、東京医科歯科大学を事業推進責任校として、東京大学、千葉大学、新潟大学、東京慈恵会医科大学、東京女子医科大学が連携校となって、医学教育認証評価制度確立に向けた研究を5年計画で行うこととなった。

国際的に認知される医学教育認証評価制度には、二つの必須要件がある。

第一は、政府／全医学部によって認知された公的認証評価機関の組織化である。そこで、文部科学省GPでの研究と同時に、全国医学部長病院長会議や日本医学教育学会等との協力により、日本医学教育認証評価評議会（Japan Accreditation Council for Medical Education: JACME）を発足させ、認証評価制度を確立すべく検討を開始した。まずはJACMEの存在を国際的に発信していくことが必須要件をクリアする上で重要と考える。

第二は、国際基準に則った認証評価を実施することである。この目的には、日本医学教育学会「医学教育分野別評価基準策定委員会」が中心となり、世界医学教育連盟（World Federation for Medical Education: WFME）のグローバルスタンダードを日本の実状に合わせて一部改変し、国際的に通用する評価基準を策定した⁶⁾。この基準は、9領域と、その下位に当たる36下位領域とで構成され、それぞれに基本的水準と質的向上のための水準が規定されている。そして説明を分かりやすくするための注釈と、日本の実状に合わせた日本版注釈も掲載されている。

3. 分野別認証評価制度のあり方

諸外国における認証評価制度は基本的には次の構成からなり、JACMEも同様なスタイルでの認証評価制度を計画している。

- ①自己点検評価（self-evaluation）
- ②自己点検評価の認証評価委員による査読、文書での質問
- ③認証評価委員による現地調査（site-visit）
- ④評価結果報告、認証
- ⑤認証評価に基づく各医学部での改善

認証評価は、評価基準に沿って各医学部が自己点検することからスタートする。医学教育の質を保証する上でもっとも基本かつ重要なのは、各医学部が自主的に自己点検評価を行い、良い点は堂々と公開し、改善すべき点は自ら襟を正して改革することにある。外部の認証評価委員に指摘されるまでもなく、改善すべき点は自主的に改善する姿勢が尊重される。

自己点検評価によって作成された資料はJACMEに送られ、JACME委員が査読する。査読後、質問を当該医学部に発したり、追加資料を求める。その後外部評価者チームが医学部に向いて現地調査を行う。外部評価者チームは、JACME委員に受審医学部とは利害関係のない医学部教員も加え、総勢で6～7名から編成される予定である。委員数を増やすことで、より公正な外部評価が期待できよう。

現地調査では、医学部の教育担当者、教員、学生、研修医等と面談し、質疑を行う。さらに講義や実習を見学したり、教育病院や研究施設等を視察する。こうして国際基準に準拠して適正に教育され、成果があげられているかどうかの判定が行われる。

最終的にはJACMEが外部評価者チームの最終報告を参考に、認証を行う。評価結果は原則として公開する。受審医学部は、評価結果に基づいて医学教育の改善計画を提示し、改善の進捗状況も年次報告として公表することが求められる。

4. 進捗状況と今後の方針

認証評価制度の発足に重要な役割を果たしたのが、平成24年10月29日～11月2日に行われた東京女子医大における国際外部評価である。世界医学教育連盟（WFME）の西太平洋医学教育会議（Association for Medical Education in the Western Pacific Region: AMEWPR）から5名の外部評価委員を招き、筆者も委員として加わり、総勢6名で外部評価を実施した。国際外部評価の報告は公表されている⁷⁾。

この国際外部評価は、公的な認証評価機関による評価ではなく、かつ認証を目的としたものではない。あくまでも東京女子医科大学が自主的に医学教育の改革を進めるために国際的な評価を受けたものである。しかし、今回の国際外部評価は国際的な認証評価制度に沿って実施されており、そのプロセスならびに成果は、今後わが国で分野別認証評価制度を確立する上で大きな参考になった。

そこで、東京女子医科大学での経験を基に、医学教育の認証評価の進め方を確立することとした。さらに2013年2月22日の公開シンポジウムでは、LCMEからDr. Dan Hunt、WFMEからはProf. David Gordonを招き、国際的に通用する認証評価制度の設立について議論した⁸⁾。その成果を踏まえ、平成25年度からは、文科省GP連携校を中心に認証評価を開始し、順次、JACMEによる認証評価を受審希望医学部に広げていく方針である。

おわりに

認証評価の目的は、医学部の序列化でも差別化でもない。グローバル化に対応すべく、全国レベ

ルで医学教育の質を向上させることが目的である。ECFMGの通告に応えるには、今後10年間で80医学部の認証評価を実施する必要がある。そのためには、認証評価制度を確立し、評価者の選出、評価法や評価基準の確定、公表の方法など、早急に解決すべき課題も残っている。全医学部、行政機関、医療関係者のご理解、ご協力を仰ぎたい。

■文 献

- 1) 全国医学部長病院長会議医学生の学力低下問題検討WG. 医学生の学力低下問題に関するアンケート調査結果報告書, 2013年.
- 2) 金子元久. 認証評価の展望. 大学評価研究 2013; 12: 5-13.
- 3) <http://www.ecfmg.org/about/initiatives-accreditation-requirement.html>
- 4) <http://www.lcme.org/>
- 5) 柴原真知子, 錦織宏, 中村真理子, 鈴木利哉, 武田裕子, 小西靖彦, 福島統, 奈良信雄. 英国卒前医学教育改革の動向－General Medical Councilにおける教育質保証の取り組み－. 医学教育 2013; 44: 63-70.
- 6) 日本医学教育学会医学教育分野別評価基準策定委員会. 医学教育分野別評価基準日本版（案）v08, 世界医学教育連盟（WFME）グローバルスタンダード2012年版準拠. 医学教育 2013; 44: 172-97.
- 7) 東京女子医科大学. 2012年東京女子医科大学医学部グローバルスタンダードに基づく国際外部評価受審記録. 2013.
- 8) 東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター. 国際基準に対応した医学教育認証評価制度の確立. 公開シンポジウム記録集, 2013.